



上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 河口 尚志

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/ueharae>

3月を迎えて ～自己の成長～

副校長 川島 丈典

1年生の生活科に「もうすぐ2年生」という単元があり、「入学してからの1年間を振り返り、自己の成長に気づき、支えてくれた人への感謝の気持ちと進級への期待感や意欲をもって生活しようとする事ができるようにする」ことを指導の目標にしています。

今年に入り印象的な二つの出来事がありました。

一つ目は、書き初め展を見に来た保護者の方が、本校の教職員に「作品を見て、子供の成長を感じ、また学年が上がるにつれて字が上手になることに改めて驚かれた」の旨の感想を話されたことです。

二つ目は、移杖式（2月18日）の前日のリハーサル終了時に、6年生の担任が「明日が最後の演奏になること。4年生での楽器のオーディションからずっとみんなの鼓笛活動を見守っていて、本当に上達したのを感じる。明日の演奏を期待していること」と6年生に思いを込め胸を詰まらせながら切々と話をしていたことです。

これらの出来事から自分では気づきにくい自己の成長を、周囲の大人がその姿を伝えることも大切であることを改めて感じました。

「もうすぐ2年生」の内容は、1年生だけでなくどの学年にも通じ、大切なものだと考えます。上原小学校は、3月がその様なまとめの時期になるよう努めてまいります。



「ホンモノ体験」校長室前で卵から育てたサケの稚魚も大きくなりました。子供たちも餌やりをしてくれました。もうすぐ放流です（版画 青木教諭）

中学生の職場体験

2月1日（水）から3日間、上原中学校の1年生の生徒5人が職場体験に来ました。初日に、「先生方にインタビューをしたいのですが」と言われ、私も答えました。質問の中で「仕事をしていてうれしいことはどんなことですか」と聞かれました。具体的なうれしいことだけでなく「仕事でうれしいこと＝仕事の喜び」と捉えると「仕事の喜び」は二つあるのではないかということも話しました。

一つは「人が喜んでくれること」。もう一つは「仕事そのものの中に楽しさを見出すこと（仕事への気付き、取り組み方を工夫すること、自己の向上に喜びを感じること）」。この二つは、「家のお手伝い」「係や当番活動」「委員会活動」等、活動の違いはあるが日常の仕事の中でも感じることができるとも伝えました。

短い期間でしたが、授業の準備や手伝いに取り組み、休み時間には子供たちと元気に遊んでくれました。毎日、一日の終わりに生徒たちと活動の振り返りを行い、その中で次のような話をしてくれました。

- ・大勢の子に話しかけられて、どうしてよいか分からず困ったけれど、一人一人順に話をすればよいことに気付いた。また、相手の目を見て話すようにすると、楽しそうに話をしてくれ自分も嬉しくなった。
- ・笑顔でいると、低学年の子が沢山寄ってきて笑顔で話しかけてくれた。笑顔でイメージが変わることに気付いた。
- ・先生の対応を見て、子供が自分で解決できるように「(成長を)待つ」ことも大切であることを学んだ。
- ・体育の時間、先生の立場で手伝ったので、何も運動ができず寒かった。自分は学校では生徒として運動する立場だったので、寒さを感じている先生の立場が分かった。
- ・専科などの準備や片づけを手伝ったが、今まで授業をする先生しか目に入っていなかったけれど、授業以外の姿を学んだ。

今回の職場体験で、生徒たちが学び、成長する姿を見て、本校の児童・教職員もよき体験ができたことを感じます。コロナ渦で2年間できなかつた職場体験ですが、今後も末永く続くことを心から願っています。